

村岡花子における教養ネットワークに関する研究

Research on education networks in Hanako Muraoka

森 美幸

Miyuki Mori

大妻女子大学大学院 人間文化研究科 言語文化学専攻 修士課程

キーワード：村岡花子，ミッションスクール，教養ネットワーク

Key words：Muraoka Hanako, Mission school, Liberal arts network

1. 研究目的

本研究の目的は近代の女性教育ネットワークを調査することである。

明治以前の女性が求められていたのは妻としての役割に限られていたが、明治に入り〈家庭〉という概念が日本で定着していくと「良妻賢母」としての教育の必要性が説かれるようになる。母親は次世代の国民である子供を育てる役割が第一とされ、良い家庭は良い国を作るという考えの元に日本の女子教育は整備されていく。

こうした背景に対して、西欧の女子教育を移入したミッションスクールは良妻賢母の教育を強固にしていきながらも「職業婦人」へと繋がるような民主的で自立した女性を育む教えを行っていた。彼女らは外国語のテキストや生活習慣を教え込まれることで特徴ある教養を身につけていた。

そこで修士論文では卒業論文で取り上げた村岡花子を中心に、家庭教育が土台となりその上に学校教育が培われつつある花子の教養が周囲との交流からいかに相互に影響し合うのかを明らかにすることを目的とする。特に少女期から成人期までの村岡を取り巻く教養周囲ネットワークを調査対象とし、日本文学ではなく海外文学を選択する基準や影響を受けた作家が書いた日本文学との差異を表しながら翻訳家に至るまでの過程を調査する。また周縁でのコミュニティの特徴も合わせて考察対象とし全容を明らかにすることを目指す。

本年では村岡花子が編集・投稿をしていた雑誌『婦人新報』を調査し、女学生に関する記事や文学の投稿欄から雑誌内のネットワークの実態を把握することを第一に、そこから限られた条件下で起きる様相を基に花子の教養形成を考察すること

が目標である。更には『婦人新報』内での文学の在り方にも着目し、ミッションスクールの教養圏にある女性達の中で文学が占めた位置がどのようなものであり、どれ程の影響性を持ち合わせていたかを調査検討する。

2. 研究実施内容

この一年間は課題や調査・研究の対象範囲やテーマ設定を見直すことを中心に資料の収集に努めた。授業での学びや大学院での研究発表会を通して当初考えていた村岡花子が携わった雑誌『婦人新報』を調査する方針から同世代の女性全般のネットワークを調査する方へと調査対象を広げ目的の設定を修正することにした。

大学院での研究発表会では村岡花子が提唱する「家庭」について、彼女の理論の構築について具体例ないことや同じ「家庭」を掲げる者でも花子自身がどの立場で発言していたのかが不明瞭である点も浮かび上がった。また花子の受けた教育は生い立ちや環境においてもミッションスクールという学校の立場からも、同世代の特に大衆的な女性が受ける教育とは異なる点が多い。その差異に関して示すため花子以外の女性を調査対象に入れる必要があった。

修正内容としては調査対象である雑誌『婦人新報』のみでは不十分であることや村岡花子が受けていた教育は同世代の中でもかなり特殊であることから調査対象を広げた。

具体的には幾つかの雑誌を加えた上で比較や共通項を導き出し近代女性の年代や階級層・性別といった「教養ネットワーク」の差異と重なりを調

査する方向で研究を進めることにした。

現時点では『婦人新報』のほか『女子文壇』と『青鞥』の雑誌あら、時代や項目を絞り込み投稿された資料を収集していく予定である。

3. まとめと今後の課題

当初の目的である村岡花子とミッションスクールでの教育を見るために調査対象とした雑誌『婦人新報』での教養ネットワークを研究する方針から、一年間の見直しや発表会での課題点を基に研究内容を修正し、雑誌を三つまでに増やし比較・検討しながらそれぞれの雑誌にある教養ネットワークの特徴を研究するため資料の収集を行ってい

る。

今後の課題としては、収集を急ぐ必要があることや研究の絞り込みが不十分であることが挙げられる。加えて女性教育に関する先行研究の収集も未だ不足しているため、これらを引き続き行いながら先行文献や考察を深め独創性のある修士論文の完成を目指している。

4. この助成による発表論文等

学会発表

[1]「森美幸」「村岡花子の「家庭」」「日本文学専修大学院研究発表会」「二〇二三年七月二〇日」「大妻女子大学（東京都・千代田区市ヶ谷）」